

■朝会／最近のニューズピックス紹介 10:10～10:20

■第1講 10:20～11:40 「ビジネスと人権:『サプライチェーンのリスク』」

講師 下田屋 毅(しもたや・たけし)氏

(Sustainavision Ltd. 代表取締役／株式会社オルタナ オルタナ総研フェロー)

①講義 10:20～11:10(50分) ②グループディスカッション 11:10～11:25(15分) ③全体セッション 11:25～11:40(15分)



【経歴】一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会(SRA ジャパン)代表理事、一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステナブル・サプライチェーン(ASSC)創始者。日本と欧州とのサステナビリティの懸け橋となるべく Sustainavision Ltd.を 2010 年英国に設立。日本企業に対してサステナビリティに関する研修、関連リサーチを実施。2017 年 ASSC を日本にて設立(2022 年 4 月代表理事退任)。

2018 年 3 月、SRA ジャパンを日本に設立。飲食店・レストランのサステナビリティの向上と消費者の行動変容へ結び付け、フードシステムをより良い状態へとシフトするための活動に取り組んでいる。英国イースト・アングリア大学環境科学修士、英国ランカスター大学 MBA 修了。Global Sustainable Tourism Council(GSTC)アドバイザリーグループメンバー、農林水産省フードテック官民協議会サステナブルレストラン推進 WT 座長。講演執筆多数。

【講義概要】企業に関係する人権のリスクはグローバルに広がるサプライチェーン、また国内のサプライチェーンにおいても存在すると言われています。過去に人権侵害のリスクが顕在化した事例からどこにサプライチェーンにおける人権侵害のリスクがあるのか、また企業が「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を基本として、どのように対応したらよいのかについて、ビジネスと人権の基本的理解とともに解説します。

――― 昼休憩 ―――

昼食は会議室で召し上がっても、外食していただいても構いません。隣の部屋(サロンスペース)はレンタルしていないのでご使用いただけません。(お手洗い、自動販売機: シティラボ東京の入口を出て右手 喫煙所: 地下1階～3階)

■NGO/NPO の事例紹介 12:40～13:00 「職場におけるリプレゼンテーション」

講師 伊藤 芳浩(いとう・よしひろ)氏 (NPO 法人インフォメーションギャップバスター 理事長)

①プレゼン 12:40～12:55(15分) ②質疑応答 12:55～13:00(5分)



【経歴】情報アクセシビリティ向上に尽力する社会活動家。日本手話を第一言語とするろう者として、自身の経験に基づき、誰もが情報から取り残されない社会の実現を目指して活動。企業・行政・教育機関等で、情報アクセシビリティ、合理的配慮、DEI(多様性・公平性・包括性)をテーマに講演・研修を多数実施。著書に『マイノリティ・マーケティング』などがある。

【組織概要】情報アクセシビリティ向上を通じて、誰もが情報に平等にアクセスできる社会を目指す非営利団体です。特に聴覚障害者の情報格差解消に注力し、当事者の視点からソリューションを提供しています。主な活動は、企業・行政等への啓発活動、そして情報格差解消に向けた政策提言や情報発信です。これらの活動を通じ、障害の有無に関わらず誰もが社会に参加できる共生社会の実現に貢献しています。

【プレゼン概要】「職場におけるリプレゼンテーション」とは、組織内で多様な人々が公正に、かつ十分に代表されている状態を指します。これは単に人数が多いだけでなく、意思決定や文化形成に多様な声が反映されている状態です。企業経営者にとって、職場におけるリプレゼンテーションは、事業成長に直結する重要な経営課題です。本セッションでは、企業が障害者のインクルージョンをビジネスの中心に据えるグローバルキャンペーン「The Valuable 500」が提示している、障害のある人々が職場で真に活躍するための「真の障害者のリプレゼンテーション」の指針について解説します。その示唆は企業の DEI(多様性・公平性・包括性)推進に大きく貢献すると考え、多様な人材のリプレゼンテーションを促進し、その能力を最大限に活かす職場環境の構築方法について考察します。

## ■第2講 13:00~14:20「企業事例:王子グループのサステナブルなものづくり」

講師 三井 健一(みつい・けんいち)氏

(王子マネジメントオフィス株式会社 グループマーケティング本部 マーケティング企画部 部長)

①講義 13:00~13:50(50分) ②グループディスカッション 13:50~14:05(15分) ③全体セッション 14:05~14:20(15分)



【経歴】1994年に名古屋大学大学院農学研究科を修了し王子製紙株式会社に入社。印刷情報用紙製造や R&D 部門での機能性塗工紙および顔料自製技術の開発に従事。生産技術に関する社内プロジェクトにも多く参加し技術分野での経験を積む。昨年よりマーケティング企画部にて、紙ベースへのサステナブルパッケージの企画提案やクロスボーダーでのパッケージング事業共創プロジェクトに取り組む。趣味は国内ではゆったり呑み鉄の旅とアジア諸国への独行。

【講義概要】製紙業は100年以上前からサステナブル。「木を使う者は木を植えよ」という教えに基づき早生樹の植樹で原料確保。また、非化石燃料ボイラの導入によりカーボンオフセットを早くから実践してきました。デジタル化による紙需要の変化、包装廃棄物に関する欧州規制の影響を受けサステナブルパッケージングやバイオリファイナリ製品群の開発を進めています。これらは森林資源の恩恵を受け、森の価値を定め発信することと事業の存続はまさに両輪。本稿ではこの価値認識と浸透に向けた取り組みを紹介します。

## ■第3講 14:35~15:55「宿題発表:自社のアウトサイド・イン&パーパス表現」

講師 森 摂(もり・せつ) (株式会社オルタナ 代表取締役/武蔵野大学大学院環境学研究科 客員教授)

①講義 14:35~14:45(10分) ②グループワーク 14:45~15:25(40分) ③全体セッション 15:25~15:55(30分)



【経歴】東京外国語大学スペイン語学科を卒業後、日本経済新聞社入社。編集局流通経済部などを経て1998年-2001年ロサンゼルス支局長。2006年9月、株式会社オルタナを設立、現在も代表取締役。前オルタナ編集長(2006-2025)。主な著書に『未来に選ばれる会社—CSRから始まるソーシャル・ブランディング』(学芸出版社、2015年)、『ブランドのDNA』(日経ビジネス、片平秀貴・元東京大学教授と共著、2005年)など。武蔵野大学大学院環境学研究科客員教授。武蔵野大学サステナビリティ研究所主任研究員。一般社団法人サステナ経営協会代表理事。日本自動車会議「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」選考委員。公益財団法人小林製薬青い鳥財団理事。

【講義概要】宿題では、自社のアウトサイド・イン(社会課題の解決を起点にしたビジネス創出)とパーパスをシートに表現していただきます。創業ストーリーや経営者の想いが見える化し、自社の存在意義を見つめ直すことがポイントです。当日は、森の講義の後、小グループに分かれて自社の発表をし合い、質問や感想、意見交換を行います。事前にグループ代表の発表者を1名決めていただき、「自社のアウトサイド・イン&パーパス」(代表者の分のみ)とグループで出した意見を全体で発表していただきます。

## ■第4講 16:10~17:30

### 「企業事例:オムロンの長期ビジョン『SF2030』とカーボンニュートラルソリューション事業」

講師 貝崎 勝(かいざき・まさる)氏 (オムロン株式会社 データソリューション事業本部 カーボンニュートラルソリューション事業部 シニアアドバイザー(サステナビリティ))

①講義 16:10~17:00(50分) ②グループディスカッション 17:00~17:15(15分) ③全体セッション 17:15~17:30(15分)



【経歴】千葉大学大学院 工学研究科 工業意匠学専攻 修了。

1990年オムロン株式会社入社。デザイン部門でプロダクトデザインやユーザインタフェース研究、コーポレートコミュニケーション本部でブランド戦略、経営企画室で技術・新規事業戦略、事業開発本部、環境事業本部で新規事業の企画業務などを担当。2017年よりサステナビリティ推進室 企画部長として、長期

ビジョン、中期経営計画におけるマテリアリティ策定とサステナビリティマネジメント構築に従事。その後、サステナビリティ統括部長として全社サステナビリティ推進活動を通じた価値創造の統括責任者として取り組む。2025年3月定年退職後、カーボンニュートラルソリューション事業部でシニアアドバイザーとして、新規事業の立ち上げを推進中。

【講義概要】オムロンは2030年に向け、変化する社会を見据え、2022年度から新たな長期ビジョン「Shaping the Future 2030 (SF2030)」をスタートさせました。ここには、企業理念を実践し持続可能な社会をステークホルダーとともにつくっていくという思いを込めています。多くの社会的課題が噴出するこれからの10年を、新たな市場と事業を創造する大きなチャンスと捉え、SF2030では、社会に与えるインパクトが大きく、オムロンの強みを活かせるという観点から、「カーボンニュートラルの実現」、「デジタル化社会の実現」、「健康寿命の延伸」の3つを当社グループが解決すべき社会的課題と決めました。今回の講義では、その中でも「カーボンニュートラルの実現」に向けて新たに取り組むオムロンの姿をご説明します。